



2016年4月 第47号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

- えっ、大泉南小に白子川がくる!?
- 源流探歩⑧
- 源流がよごれている!! (下)
- ◆ 新会員紹介
- ◆ 自由投稿「ワーツ! 亀が飛んだ～」
- 定例活動報告



小さい川だけれどー

桜が咲き、そして 散ってゆく
冬の間ひっそりと隠れていた生きものたちが
いっせいに目覚め、営み始める
草木も鳥も、蛙も魚たちも

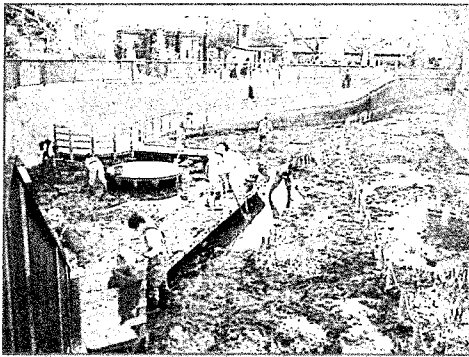
白子川は、こんなに小さい川だけれど
なぜか 私達おおぜいの人間を、しっかり繋ぎとめる
“大切なことは何か” ということ
だまって教えてくれようとしているのだろう

不思議な川だなー おまえは

リレー表紙 2
(文・渋谷英子/写真・渋谷瞭司)

定例活動報告

12月 1月 2月 3月



3月定例時。源流池に広がるドロの除去作業。

源流域は、冬～夏にかけて

「かいぼり」 実施中!

昨年12月の定例活動時に、積み上げていた井頭堰の石を取り除き、堰を開けて源流部の水を流すことにした。冬場の湧水時期を利用して、ここ源流池でも「かいぼり」を実施しようということだ。水が引けば、池にたまったドロをかき返し返して「川普請」を行い、太陽光を当てる。そうすると、ここ数年悩まされているアオミドロの発生を抑えられるのではないかと考えた。

堰を開けると源流池の水位は下がり、黒々としたドロだらけのちょっとさびしい風景が広がった。しかし、なぜかここ数年湧き水が多くて、カラカラに干上がることがない。たまった湧き水の中でアオミドロが腐りはじめる。1月2月の定例時にはその除去と川普請におわれ、3月はたまったドロの除去をバケツ150杯もやって、植栽の肥料にすべく公園の土に埋めた。苦肉の人海作戦だが、効果はどれほどか…。

今春、再び堰を築き源流池に水をためたら、元の木阿弥かも！そこで、今回はこの「かいぼり」を日照りの夏まで継続することにした。私たちは地域の子どもたちの手も借りながら、これからも延々とドロの除去に励むことになる。

(東谷貞子)

＊源流域・水の測定データ

測定地点	項目	日	12/27	1/24	2/28	3/27
		天気	☀	☀	☀	☁
	気温℃		10	7	21	17
源流部	水温℃		13.8	11.9	19.1	17.5
	水深cm		7	4	5	2
	PH		8.3	8.7	8.7	8.3
井頭橋	水温℃		12.1	13.2	15.9	16.6
	水深cm		13	12	10	14
	PH		8.0	8.5	8.4	8.2

※このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。pHは水素イオン指数で、pH7が中性、これより大きいとアルカリ性、小さいと酸性を示している

活動記録

- 1/ 9 有志で「川普請」(かいぼり用みお作り)
- 24 定例活動 (12月からのかいぼり継続)
- 2/ 6 白子川の鳥調査 (第1回)
- 28 定例活動 (かいぼり継続)
- 3/ 6 カワセミ用の巣箱作りと設置
倉庫前の道路コンクリ修繕(大塚)

- 3/13 大泉南小玄関のアクアリウム作り協力
- 27 定例活動 (かいぼり継続)
- 4/ 6 全労済助成金の申請
- 24 定例活動 (かいぼり継続)

※毎月、定例活動前日に運営会議

水辺が好きなのです

羽沢在住 保坂 美里

皆様はじめまして。今年から白子川源流水辺の会に入会いたしました、保坂美里と申します。生まれも育ちも練馬区の、生粋の練馬区民です。

そんな私ですが恥ずかしながら、白子川の源流が練馬区内にあることを知ったのは、つい最近のことでした。地元で自然と関わる活動をしているところはないかと、インターネットで探していたところ、TOT Oさんのホームページを拝見し、こちらの会が募集していることを知りました。自分

の住んでいる町に川の源流があるのかと興味を持ちました。

私は大学生の頃ゼミ活動の一環として、地域の方と共に新河岸川の清掃活動や、大学の講師と共に市内の鳥の調査等をしておりました。また趣味でスキューバダイビングもやっております。水辺が好きなのです。

白子川をはじめて見たのは源流まつりのときでした。大泉学園の駅を降りて、最初は道に迷うのではないかと感じておりました。しかし道のあちこちに、「白子川まであと何メートル」といったプレートが掛けられており、この川は地域の方々に愛されているのだなと思ったことを覚えております。

皆様にはこれから活動の中でお会いすることがあると思います。その際はどうぞよろしく願いいたします。

えっ、大泉南小に白子川が来た!?



「大泉南小学校にミニ白子川が出現しました。」

3月13日、大泉南小学校職員玄関、用務員室の前の廊下に、アクアリウムが完成しました。

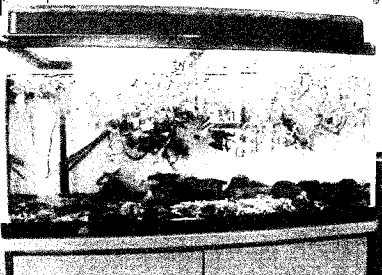
当日は、校長先生、生徒と当会員が、白子川で生き物を採取し、川の水をくみ上げ、リヤカーで大泉南小学校に運びました。

アブラハヤ・タモロコ・ギンブナ・ホトケドジョウ・ヌマエビ・ザリガニなど、白子川を代表する生き物がアクアリウムにいます。



山口さんの庭を通して学校へ

校長先生が循環装置を調整



水槽の管理は4年生のようです

大泉南小学校の調べ学習「白子川博士になろう!」は、毎年4年生が担当しています。学習のすすめ方は、PTAや当会がサポートし、生徒数人のグループを作ってテーマは何とするか、何を調べるか、何を発表するかを決めて、「白子川源流まつり」でも発表しています。

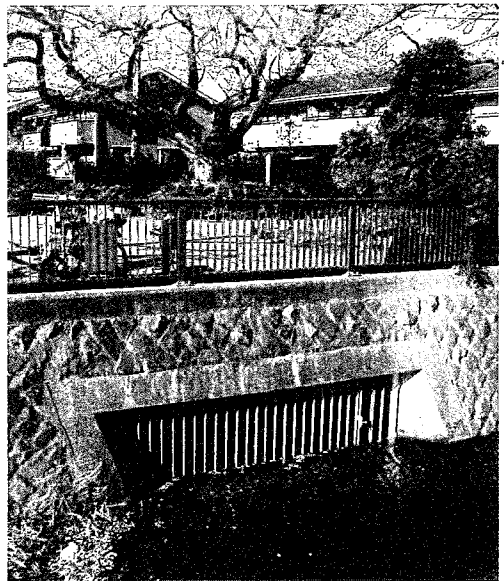
小学校のアクアリウムが、学習のきっかけづくりになればと思います。学校へお立ち寄りの際に、一度ご覧になってはいかがでしょうか。(八本賢二)

源流がよごれている!!

——対策編（下）

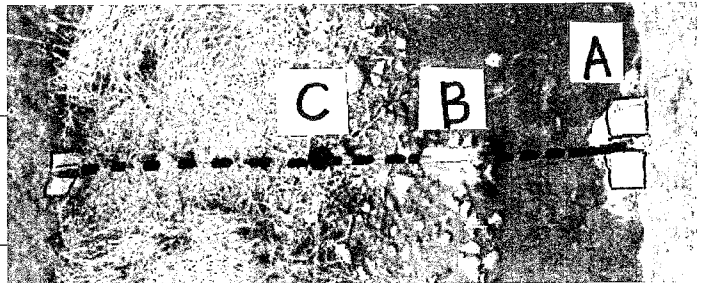
菅沢 博

前号では、源流（親水エリア一帯）の水質悪化の大きな要因は、合流式下水道による汚水の流入（逆流）だと書きました。ではどうすればよいか。答えは「人工式水門」の設置によって親水エリアへの流入（逆流）を食い止めることだと思います。



下水吐け口

写真① 逆流防止と思われる水門の痕跡を上から見たところ

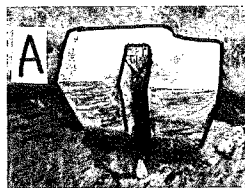


（“痕跡”がキッカケ）

右上の写真は、マルバヤナギの近くにある下水吐け口です。その2m上流に、逆流を防ぐためと思われる水門設置の痕跡（写真①）があります。私は次のように推測しています。

A地点（写真②）はきっとスライド式ボードの右岸側固定支柱、B地点（写真③）はボードのレール跡、C地点（写真④）は2枚のボードを川の真ん中でジョイントする支柱にちがいない。

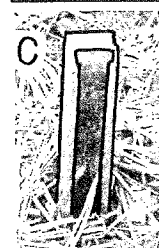
したがってこの水門跡は、親水エリアを造るときに、下水吐け口から流入する汚水を食い止めるために設置しようとしたものと思われます。



写真②
水門のボードをスライドさせるコンクリート構造物跡



写真③
ボードのレール跡がくっきりと見える



写真④
川の中央にある、ボードをジョイントする支柱

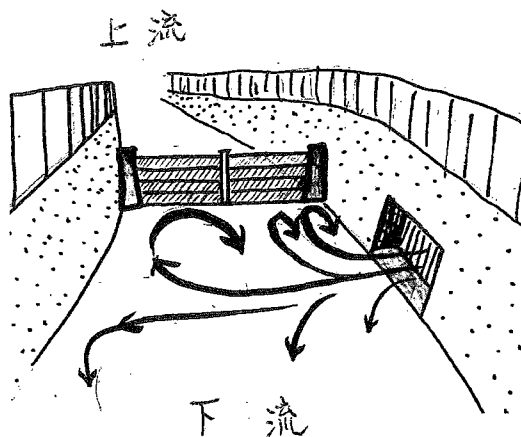
なぜ?
どうする?

（ じんりょく 人力式水門とは ）

以上の推測に沿って「行政がかつてやろうとしたことを行政と協働で再度実現しよう」と思います。考えていることは人力式水門の設置。完成型は図①(上から見ると図②)のようなイメージです。パネルの素材は、軽くて丈夫なACL（軽量発泡コンクリート）が良いかな……。

人力式水門とは、平時では取り払い、大雨が予想される場合に人の手で門を閉め、汚水混じりの雨を食い止める水門をいいます。

たとえば或る日、豪雨が来そうだと判断した地元の「水門チーム」（当会がメインで行政が認めたチーム）が、保管場所（Aさん宅）からパネルを運び出し設置する→豪雨→逆流を食い止める→雨がやんで水位が下がった後にパネルをはずし保管場所へ収納する→という流れです。



図① 豪雨時に下水吐け口から流入する汚水は上流をめざすが、水門によって押し返され下流へと向かうはず…

（ 当会と地域と専門家と行政との 協働で ）

以上はあくまでも私案です。源流の流れを改善する取組みをはじめするには行政まかせではなく、[当会+地域住民+専門家+行政]の協働によってこそ実現できると考えます。



図② 人力式水門を上から見たところ

身近な川の全国一斉調査

参加者募集 !!

- 6月5日(日) 9時~12時 雨天決行
- マルバヤナギの下 集合、動きやすい服装
- 川に入って水質・生物・植物等調査
- 申し込み先: 菅沢 03-3923-8430

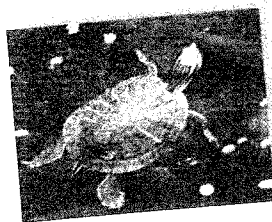
定期総会のお知らせ

6月19日(日)午後1時30分~

東大泉地域集会所

この1年を振り返り、新たにスタートする大切な場です。
会員のみなさま、ぜひご出席ください。

ワーツ！ 亀が飛んだ～

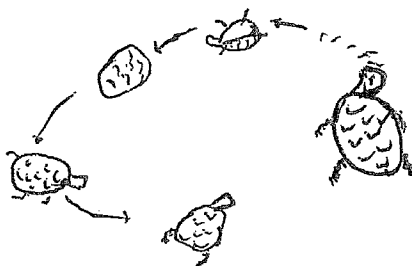


正田英子
(東大泉7丁目在住)

2/5 (金) 晴PM4:30 過ぎ、本当に何か月振りかの白子川散歩であった。陽も沈みかけた夕暮れの時間帯、カモ達も下流へと^{おくら}時に急いで帰る途中の様だ。井頭橋近くの手すり越しにその可愛く泳ぐ様子をジーツと眺めていた時、突然上流に向かってカモ達の間を通り波を掻きわける様にして変な物体がのぼって来た。鯉でもない包まれた波で確認できなく気持ち悪いまま動いて行く先を追うと、その2、3m先の浅瀬に20～25cm位の大亀がそこに居た。物体は大亀の1/2程の子亀であった。子亀は親の待つ所へ急いで帰っていったのだ、又、親も帰って来る子を待っていたのだ。「人間世界と同じだ」と納得し微笑ましく見つめていた。

ところが、子亀が親の所へたどり着いた瞬間であろうか、いきなり「ポーン」と空中高く何かが下流の方へ飛んで来た。「エッ？ 今のは何だろう」と落ちた所を目で追うと、そこに子亀がいた。そして又、親の方へ必死で泳ぎ遣って行くが、鼻先で力いっぱい、又飛ばした。今度は完璧に見てしまった。—ビックリ・ポン！—である。それでも必死に親の元？へ行くと大亀は懸命になって体で押しつけている。「これ本当に親子亀？」と疑問を持った、ひょっとして以前岡崎氏の言われた縄張り争いか？ それにしても兎がピョンピョン飛ぶのと訳が違う。

亀が「飛ぶ」否「飛ばされた」にしても納得いかないと考えているうちに可笑しくなり一人でクスクスと笑ってしまった。
(側に誰も居ず良かった)



大亀が小亀を押しつけている間2匹は何を話し合ったのか小亀は下流へノッソリ(シヨンボリ)と大亀から離れて行き、手前の草むらの中に姿を消して行った。その後姿を小亀が見えなくなるまでジーツと見つめていた大亀の姿に何とも言えない不思議な感じでこちらまでジーンと心にくるものがあった。まるで人間世界の「別離シーン」である。

大亀は小亀が見えなくなった時点で反対の向こう岸へとノッソリ、ノッソリと移動して小高くなっている草原を必死で登りはじめた。もうすっかり暗くなり向こう岸の様子は完全に確認できなくなってしまった。きっと巣へ帰るのであろう。

嘘みたいなの、本当に出会った川での触れ合いのひとつでした。「白子川よ Thank you !」です。

さて、私には疑問が残りました。何故「飛んだ」か「飛ばされたか」の理由です。

ある人は言います…「それは人間の子育てときっと同じじゃない？ 親離れは大切よ」と。そしてもう一言「ああいう生き物は、え・ら・いッ」と。

- ① 2匹は親子で子を独り立ちさせるために。
- ② オスの恋心で近寄り過ぎて「肘鉄」くらった。
- ③ 縄張り争いで—小亀の負け。
- ④ その他()

正しい回答を待っております。

(03-3921-9531)

源

流

探

歩

⑧

岡崎一成

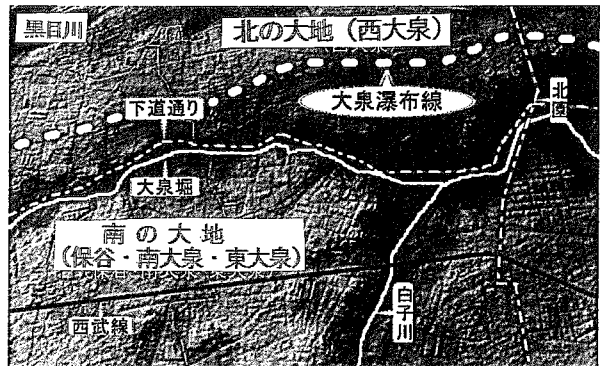
アズマヒキガエルの分布と地下水位



大泉堀が削ってできた谷(下道通りの筋)を挟んで南の台地(保谷・南大泉・東大泉)と北の台地(西大泉)があります。

準絶滅危惧種(都区部)のアズマヒキガエルは、南の台地ではよく見かけますが、北の台地ではあまり見かけません。

なぜでしょう？



アズマヒキガエルのいる
南の大地

アズマヒキガエルのいない
北の大地

《特徴》

- ◆小川や水路の跡が多い。◆昔、“シマツボ”と呼ばれた雨が降るとできる小川や湿地があった。◆農地の開発が歴史的に早い時期から行われていた。◆浅井戸である。

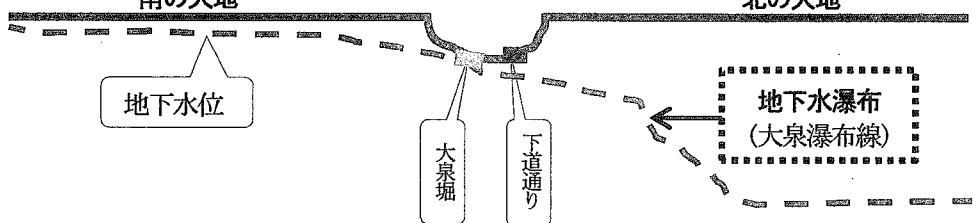
《特徴》

- ◆小川や水路の跡がほとんどない。◆“シマツボ”があった形跡がない。◆農地の開発が遅く、近代まで森が多く残っていた。◆深井戸である。

アズマヒキガエルが南の台地に多く北の台地に少ないのは、地下水の水位に理由があると考えています。

アズマヒキガエルのいる
南の大地

アズマヒキガエルのいない
北の大地



地下水瀑布とは、地下水の滝です。北の台地の地下には大泉堀に沿って地下水瀑布があります。これは大泉瀑布線と言われています。そのため、西大泉の中・北部地区の地下水水位は深くなっています。

南の台地は、地下水水位が浅いために雨が降れば水が湧きだしたり、水はけが悪く湿地が多かったのでアズマヒキガエルには良い環境であったと考えられますが、地下水水位の低下と市街地化によって、産卵場所となっていた湿地はなくなりました。北の台地は、地下水水位が深いため湿地ができにくく、生息環境としては適していなかったのではないかと考えています。

アズマヒキガエルは、現在小中学校のプールや池、白子川源流の井頭池などに産卵をしてなんとか命をつないでいる状況です。アズマヒキガエルの生息環境が危機に瀕しています。

だいせんぼり
大泉堀

大泉学園駅北西、中島橋からやや上ったところにある
大きな開口部で合流する白子川の支流。

アカバナ科チョウジタデ属の植物で、松殿橋の少し下流あたりに生育する。葉は卵形で互生する。沈水状態では、葉が赤みをおびる。花期は7~10月。葉のわきに目立たない小さな花をつけるが、花弁はない。

類似するものに、アメリカミズユキノシタとセイヨウミズユキノシタがあるが、アメリカミズユキノシタとは、花に黄色い花弁をもつ点や、葉が対生する点などで区別できる。またセイヨウミズユキノシタも葉を対生するため、ミズユキノシタと区別できる。なおセイヨウミズユキノシタは花弁をもたない点でアメリカミズユキノシタと区別できる。

ミズユキノシタ



これからの活動予定

- 5/ 1(日) 南田中図書館講座『練馬の川』に講師として参加 2回目
 8(日) 荒川の天然アユ放流 (pm 緑橋にて)
 22(日) 定例活動
 6/ 5(日) 身近な川の全国一斉調査
 19(日) 第16回定期総会
 26(日) 定例活動
 7/24(日) 定例活動
 8/28(日) 定例活動

※運営会議は定例活動の前夜です

(財)日本計画行政学会の優秀賞受賞

この度は、練馬まちづくりセンターの小場瀬所長様の熱いご支援によりまして、(財)日本計画行政学会 第16回計画賞の優秀賞を受賞しました。審査委員から高い評価をいただいた点は、①河川整備においては行政と単に対立するのではなく協議を重ねたこと、②15年の活動を通じて地域を巻き込んできたことの2点でした。

当会の歩みに自信を持って、これからも!



定例活動 毎月第4日曜 午後1:30~

どなたでも 川にはいれます!

編集後記

▼ オッジェ。むかしむかし故郷の村で兄たちは、よく「オッジェに行ってくらあ。オメエらに行くでねえ」と。60年後の今でも、どこなのか何のことかわからない。オッジェという不思議な響き。(ひ)
 ▼「みんなの白子川」プレートを下げてくださいませんか、とお頼みした家の奥さんから断られた時のことが忘れられない。うちは白子川のウナカに迷惑してますから、と。つじつまの合う会話ではなかったが、川は流れて初めて川なのだと改めて思い知らされた。(あ)
 ▼アーサー・ピナードさんの話は面白い! いわゆる外国人の目を通して見る日本語の意外さを超越している。彼は漢字の練習帳をみて、「わあー、昆虫採集の標本箱みたい!」と目を輝かせ、漢字に興味をもった。こんな感性、どうしたら育つんやろ?(さ)

発行 白子川源流・水辺の会
 編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
 題字 宮本沙海
 発行部数 1,300部
 代表 菅沢 博 03-3923-8430
 練馬区南大泉 1-10-5
 suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年3回発行しています